



# パソコン同好会

放送大学山口学習センターサークル

機関誌 No. 112

May 19, '19

文責 井手明雄

## 1, 前例会の結果 (第百十八回パソコン同好会)

- (1) 開催日: 4月21日(日) 13:00~15:00
- (2) 場所: 放送大学山口学習センター小講義室(山口大学・大学会館内)
- (3) 内容: ① 平成30年度総会・・・平成30年度活動・会計報告、会計監査報告の後、今後の活動方針について話し合った。活動内容は、例会その都度、会員の意見を聞きながら決めることにした。  
② ワード・・・初歩的な画像処理として、前回積み残しのオリンピックシンボルマークの作成をした。完成しなかったので、残りは次回にまわした。  
③ その他・・・都合により、「入学者の集い」で本サークルの紹介ができなかったことを伝えた。

## 2, 今例会の行動予定 (第百十九回パソコン同好会)

- (1) 開催日: 5月19日(日) 13:00~15:00
- (2) 場所: 放送大学山口学習センター小講義室(山口大学・大学会館内)
- (3) 内容: ① ワード・・・便利なショートカットキー使用の試み。  
② ワード・・・前回、中途の作業完成  
③ その他

## 3, 初歩的な画像処理 2・・・オリンピックシンボルマークの作図完成

機関誌No. 111号を参考にしてください。

## 4, ワードで便利なショートカットキー使用の試み。

ワード上で文章作成中、マウスばかり使用していると面倒だったり、手間が掛かったりするので、時には、ショートカットキーを用いてスマートに文章作成すると能率が上がります。ショートカットキーばかり使っても、使用法がわからないので戸惑います。

そこで、ショートカットキーを用いることに馴れるために、今回は、第5項「5月の植物」の文章を、できるだけショートカットキーを用いて作成することを試みましょう。

フォルダー「五月例会資料」の中に、10種類の植物の写真の画像ファイル、五月の植物についての記述文が入ったファイル「演習用-五月の植物.docx」、及び抽出した五月の植物のリストを用意した「抽出した植物.docx」が入っています。これらを使って各植物についての文章と、画像を取り出して、下述の第5項「5月の植物」の文章を、作りましょう。旨く行かないときは、マウスを織り交ぜて使ってもいいです。

上手くいかない時、或いは、ショートカット操作のモードを終了する時は、[ESC]キー

を叩いてください。

### (1) 作業の手順

- ① ワードでファイル「抽出した植物.docx」を開く。
- ② ワードでファイル「演習用-五月の植物.docx」を開く。
- ③ ウィンドウを「抽出した植物.docx」に変換。
- ④ 「抽出した植物.docx」から、植物名を選択し、「演習用-五月の植物.docx」から該当する文章を貼り付け。
- ⑤ 画像の挿入

### (2) ショートカットキーを利用したの具体的操作

#### ① ワードでファイル「抽出した植物.docx」を開く。

ワードを立ち上げ、「[CTRL]+[O]」、ファイルを開くダイアログボックス表示されるので、[TAB]キーを数回押す、リストの中で最初のフォルダーが認識されるので[↓]キーを押すとフォルダー「五月例会資料」が認識されるのでそれを[ENTER]キー。

続いて、[TAB]キーを数回押す、リストから「抽出した植物.docx」か或いはいずれかのファイルがアクティブになれば、[↓]キーを押し目的のファイルが選択されるまで矢印キーを押す、該当するファイルになれば、[ENTER]キーを押す。

或いは、[TAB]キーを数回押すと、ファイル検索のボックスがアクティブになるので、その記入欄にファイル名を記入する、ここでは「抽出した植物」をタイプインします。

#### ② ワードでファイル「演習用-五月の植物.docx」を開く。

①と同様にして「演習用-五月の植物.docx」を立ち上げます。

#### ③ ウィンドウを「抽出した植物.docx」に変換。

「[ALT]+[TAB]」でウィンドウを「抽出した植物.docx」切り替えます。

#### ④ 「抽出した植物.docx」から、植物名を選択し、「演習用-五月の植物.docx」から該当する文章を貼り付け。

矢印キー使ってポインターを植物の単語の先頭に置き、「[SHIFT]+[CTRL]+[→]」単語の範囲を選択します。「[CTRL]+[C]」とし、「[ALT]+[TAB]」で、ウィンドウを「演習用-五月の植物.docx」に切り替え、「[CTRL]+[F]」としますと、ウィンドウの左側にダイアログボックスが表示されます。

記入欄に「[CTRL]+[V]」とし、ペーストします。[TAB]キーを数回押して該当する項目が表示されたら[ESC]キーを押します。

文章の範囲を指定し、コピーして、「[ALT]+[TAB]」でウィンドウを「抽出した植物.docx」に変換して、矢印キー使ってポインターを所定の位置に持ってきて、

「[CTRL]+[V]」で貼り付けします。

#### ⑤ 画像の挿入

[ALT]キーを押すと、図1のような各リボンにキーの表示が出ますので、ここでは挿入タグを使いたいのので[N]とキーインします。キーを打つと次のリボンが表示され

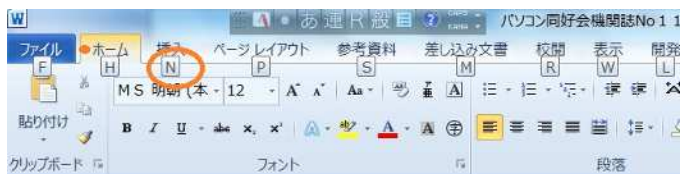


図1 ショートカットキーの表示

るので、同様にしてキーインします。ここでは、図ですから[P]と押します。リストが出ますから、[TAB]キーを数回押し④と同じようにしてファイルを選びます。コピー、ペーストです。

次に、図の操作です。

⑤-② 図をアクティブにします。

[ALT] → [H] → [SL] → [P] → [TAB]キーを数回押し相当する図が強調されたら[ENT] → [ESC]

⑤-③ 図をアクティブにした後、文中のいずれかに移動させます。図を挿入しただけでは文章と図が重なりますので重ならないようにします。

[ALT] → [JP] → [TW] → [S] [S]は図の回りに文がきます。

[JP] → [AF] → [F]が前面、[R]が最前面。[JP] → [AE] → [B]が背面、[K]が最背面。[JP] → [H]はテキストの背面となります。

⑤-④ 図をアクティブにした後、図大きさを調整。

[ALT] → [JP] → [H] 記入欄に数値を入れる。或いは、[SHIFT]キーを押したまま[→]か[↑]を押して図を大きくし、[←]か[↓]を押して図を小さくします。

⑥ 同様にして、他の植物も挿入します。

次に、主なショートカットキーの使い方を表にしましたので、参考にしましょう。

#### ワードのショートカット

目 的	ショートカットキー
ファイルを開くダイアログボックス表示	[CTRL] + [O]
リボンの表示／非表示	[CTRL] + [F1]
「検索」のダイアログボックス表示	[CTRL] + [F]
「置換」のダイアログボックス表示	[CTRL] + [H]
ワードの複数のウィンドウ開いている時切り替え	[ALT] + [TAB]
カーソルの移動、左、右へ文字移動	[←] か [→]
同上、一段上、下へ移動	[↑] [↓]
同上、一単語左、右へ移動	[CTRL] + [←]か[→]
同上、文章の区切り一段上、下へ移動	[CTRL] + [↑]か[↓]
同上、行の末尾か先頭へ移動	[END] か [HOME]
同上、1画面上、下へ移動	[PGUP] か [PGDN]
同上、次頁か前頁の先頭へ移動	[CTRL] + [PGDN] か [PGUP]
同上、ドキュメントの末尾か先頭へ移動	[CTRL] + [END]か[HOME]
同上、ウィンドウの末尾か先頭へ移動	[ALT] + [CTRL] + [END]か[HOME]
文字の選択で、左、右へ文字	[SHIFT] + [←]か[→]
移動と同じ操作で目的のところまで選択	[SHIFT] + 各キー
選択した範囲を切り取る	[CTRL] + [X]
選択した範囲をコピーする	[CTRL] + [C]
コピーしたものを貼り付ける	[CTRL] + [V]

画像を貼り付ける (1)	[ALT] → [N] → [P]
画像を貼り付ける (2)	→[TAB]→[↓] →[CTRL] + [ENTER]
画像の選択	[ALT]→[H]→[SL] →[P] →[TAB] →[ENTER]

## 5、 5月の植物 (文章は朝日新聞社出版の『花おりおり』から引用)

カツラ(桂) *Cercidiphyllum japonicum* カツラ科

島根県吉田村菅谷の<sup>たたら</sup>鑪のご神木。古代、夕タラ製鉄を興した先人は、川で採った砂鉄を水でふるい、火で溶かした。水辺を好むカツラは、人々の水と火と鉄の象徴だった。京都の葵祭にも飾られる。祭りをつかさどる二つの賀茂神社中、一つは雷神を祀る。雷神も、また水と火の神なのが、興味深い。



カツラ

ジャケツイバラ (蛇結茨) *Caesalpinia decapetala var. japonica* マメ科

刺だらけの姿や名からバラの仲間を想像しがちだが、マメ科。とはいえ、花は同じ科のフジなどと違い、サクラみたいな花びらが五枚。花の進化は、同形同大の花弁が並ぶかたちから、花弁に異形が混じる方向をたどってきた。この点で、古い種類だ。マメ科から独立させる見解もある。



ジャケツイバラ

ウツギ (空木) *Deutzia crenata* アジサイ科

通称ウノハナ。日本最古の生け垣の一つとして 『万葉



ウツギ

集』巻一〇に載るが、近年はすっかり減少。

小学唱歌「夏は来ぬ」の「うの花の匂う垣根」も遠い景色だ。花に芳香はなく、匂いとは、その白い色映えの表現。材質は堅く腐りにくい。古来、木くぎ<sup>ひきり</sup>や神事の火鑽り<sup>きね</sup>杵など多目的に利用。

カキドオシ(垣通) *Glechoma hederacea*  
*var. grandis* シソ科

一風変わった名。連想するのは「書き通し」か。正しくは「垣通し」。と言われても、その状態を見かけなくなり、意味が通じにくい。かつては身近な野草で、人家近くにも生えていた。茎は花の後つる状にはってのびる。その折に垣の下から庭に進入してくるとというのが語源。シソ科の多年草。



カキドオシ

ニワゼキショウ (庭石菖) *Sisyrinchium atlanticum*. アヤメ科

芝生の間などで小さい六弁の花を咲かせる。花はよく見ると、基部や中心は色が異なって三色を数える。セキショウ(石菖)は中国産のサトイモ科の水草で、アヤメ科の本種とは縁遠いが、北アメリカから明治に渡来した折、その小さい剣状の葉から連想された。花は一日花だが次々と咲く。



ニワゼキショウ

フタリシズカ (二人静) *Chloranthus serratus*  
センリョウ科

美しい名の山草。寺島良安は名の由来を『和漢三才図会』で「謡歌に言ふ静女の幽霊が二人となりて同じに舞遊ぶ」と述べる。花穂はふつう二本、時に一本、三～五本も。ヒトリシズカより一カ月近く遅咲きで、花は花弁も萼も欠くが、雄しべの花糸が丸まるために米粒のように見える。林内に自生。



フタリシズカ

ヒトツバタゴ (一葉田子) *Chionanthus retusus*  
モクセイ科

局在的に分布するモクセイ科の花木。日本では愛知、長野、岐阜と対馬に自生する。そのためか東京・青



ヒトツバタゴ

山の六道の辻に植えられていた木は、正体不明でナンジャモンジャの木と呼ばれた。

タゴはトネリコの方言。それが複葉なのに対し、<sup>ひとつば</sup>一葉（単葉）で、一九世紀、尾張の本草学者水谷豊文が名づけた。

オオムラサキ（大紫） *Rhododendron pulchrum* cv. *ohmurasaki* ツツジ科、  
別名、オオムラサキツツジ

身近で華やかに咲くツツジ。花も葉も大きく、大株。蝶と同じ名だが、色は明るい赤紫色。公園や街路にはよく見かけても、野生はまずない。雑種起源らしい。その名で広がるのは明治時代から。元禄時代の一六九二年に出た世界で最初のツツジの本『錦繡枕』の「大きき紫」を本種とみなす説も。



オオムラサキ

ムレスズメ（群雀） *Caragana chamlagu* マメ科  
これで、れっきとした花の名。エニシダに似たマメ科の低木で、小葉の数で見分けがつく。ユニシダの葉は小葉が三枚の奇数で、本種は小葉一対四枚の偶数複葉。花は小さく群がって咲く。それがスズメの群れに見立てられた。ただし、花色は異なる。中国原産で『物品識名拾遺』（一八二五年）に初出。



ムレスズメ

ハンカチノキ *Davidia involucrata* ヌマミズキ科  
名は、花を見れば納得できよう。大きな二枚の白い「花びら」が、ハンカチを思わせる。ただし、「花びら」のように見えるのは苞葉で、花弁も萼も欠く。ヤマボウシに似るが、苞葉は半数で、長さ十五センチにもなる。中国南西部に分布。学名の属名はダヴィディアで、パンダを見いだしたダヴィド神父に献名。



ハンカチノキ